

文科省学校保健統計

裸眼視力1.0未満の高校生の割合が65.8%に上る。とが13日、文科省の2013年度学校保健統計調査(速報値)で分かった。前年度より1.3ポイント上昇し、過去最高。小学生(30.5%)と中学生(52.8%)も過去最高だった前年度に次ぐ高水準だった。文科省は「パソコンやゲームに加え、スマートフォン(スマホ)の長時間利用が影響しているのではないか」とみている。

スマホ影響？ 視力低下

調査は全国の5〜17歳の約335万人(全体の23.7%)を抽出し、今年4〜6月に実施した。裸眼視力0.3未満は小学生8.4%、中学生25.2%、高校生33.4%で、いずれも過去最高だった前年度をわずかに下回った。

眼鏡やコンタクトレンズを使っている割合は小学生が9.0%、中学生が26.9%、高校生が37.8%。いずれも使っていない子供のうち、どちらかの目が黒板の字が見えにくい視力0.7未満は小学生が12.2%、中学生が16.9%、高校生が19.2%だった。

高校生 1.0未満65%

調査結果について、北九州市立総合療育センターの高橋広眼科部長は「パソコンやスマホの画面を長時間近くで見ていると、近視になりやすい」と指摘。「裸眼視力は今後も低下する」とみている。視力が悪化した場合は早めに眼科医を受診してほしいと話している。

